

序	iii
<b>第 1 章</b> TeX とその仲間	1
1.1 TeX って何?	1
1.2 TeX の読み方・書き方	2
1.3 LaTeX って何?	2
1.4 TeX の処理方式	5
1.5 TeX の出力	6
1.6 TeX と日本語	7
1.7 その他の TeX の仲間	8
1.8 TeX のライセンス	9
1.9 TeX の配布	10
1.10 これからの TeX	10
<b>第 2 章</b> 使ってみよう	13
2.1 Web で LaTeX を試してみよう	13
2.2 TeXworks (Windows)	15
2.3 TeXShop (Mac)	17
2.4 コマンドで行う方法	18
2.5 日本語のテスト	24
2.6 長い文書に挑戦	24
2.7 SyncTeX の使い方	27
2.8 エラーが起きたなら	27
<b>第 3 章</b> LaTeX 2 <sub>ε</sub> の基本	31
3.1 LaTeX 2 <sub>ε</sub> の入力・印刷の完全な例	31

目次		
3.2	最低限のルール	33
3.3	半角カナや機種依存文字は使えないの？	34
3.4	ドキュメントクラス	35
3.5	プリアンブル	37
3.6	文書の構造	38
3.7	タイトルと概要	40
3.8	入力ファイルに書ける文字	42
3.9	打ち込んだ通りに出力する方法	43
3.10	改行の扱い	44
3.11	注釈	46
3.12	空白の扱い	46
3.13	地の文と命令	48
3.14	区切りのいらぬ命令	49
3.15	特殊文字	49
3.16	アクセント類	51
3.17	書体を変える命令	52
3.18	文字サイズを変える命令	53
3.19	環境	54
3.20	箇条書き	57
3.21	長さの単位	60
3.22	空白を出力する命令	61
3.23	脚注と欄外への書き込み	62
3.24	罫線の類	63
<b>第 4 章</b>	<b>パッケージと自前の命令</b>	<b>65</b>
4.1	パッケージ	65
4.2	簡単な命令の作り方	66
4.3	パッケージを作る	68
4.4	命令の名前の付け方	70
4.5	自前の環境	71
4.6	引数をとるマクロ	72
4.7	マクロの引数の制約	73
4.8	ちょっと便利なマクロ	74
<b>第 5 章</b>	<b>数式の基本</b>	<b>79</b>
5.1	数学に無縁な人のために	79
5.2	数式用のフォント	80

目次		
5.3	簡単な数式	80
5.4	累乗, 添字	82
5.5	別行立ての数式	82
5.6	和・積分	83
5.7	分数	84
5.8	字間や高さの微調整	85
5.9	式の参照	86
5.10	括弧類	87
5.11	ギリシア文字	89
5.12	筆記体	90
5.13	2 項演算子	90
5.14	関係演算子	91
5.15	矢印	93
5.16	雑記号	94
5.17	latexsym で定義されている文字	94
5.18	大きな記号	95
5.19	log 型関数と mod	95
5.20	上下に付けるもの	96
5.21	数式の書体	97
5.22	ISO/JIS の数式組版規則	98
5.23	プログラムやアルゴリズムの組版	99
5.24	array 環境	101
5.25	数式の技巧	102
<b>第 6 章</b>	<b>複雑な数式</b>	<b>103</b>
6.1	amsmath と AMSFonts	103
6.2	いろいろな記号	107
6.3	行列	110
6.4	分数	111
6.5	別行立ての数式	113
<b>第 7 章</b>	<b>グラフィック</b>	<b>119</b>
7.1	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X と図	119
7.2	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X での図の読み込み方	120
7.3	graphicx パッケージの詳細	123
7.4	¥includegraphics の詳細	124
7.5	おもな画像ファイル形式	125

目次	
7.6	PostScript とは? 126
7.7	EPS とは 128
7.8	PDF とは 129
7.9	文字列の変形 131
7.10	色空間とその変換 133
7.11	色の指定 134
7.12	枠囲み 137
<b>第 8 章</b>	<b>表組み 139</b>
8.1	表組みの基本 139
8.2	booktabs による罫線 140
8.3	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X 標準の罫線 142
8.4	表の細かい制御 143
8.5	列割りの一時変更 143
8.6	横幅の指定 145
8.7	色のついた表 146
8.8	ページをまたぐ表 146
8.9	表組みのテクニック 147
<b>第 9 章</b>	<b>図・表の配置 151</b>
9.1	図の自動配置 151
9.2	表の自動配置 153
9.3	左右に並べる配置 154
9.4	図・表が思い通りの位置に出ないとき 155
9.5	回り込みと欄外への配置 156
<b>第 10 章</b>	<b>相互参照・目次・索引・リンク 159</b>
10.1	相互参照 159
10.2	目次 162
10.3	索引と MakeIndex, mendex 163
10.4	索引の作り方 164
10.5	索引スタイルを変えるには 166
10.6	索引作成の仕組み 166
10.7	入れ子になった索引語 168
10.8	範囲 169
10.9	ページ数なしの索引語 169
10.10	ページ番号の書体 170

10.11	¥index 命令の詳細 170
10.12	ハイパーリンク 171
<b>第 11 章</b>	<b>文献の参照と文献データベース 175</b>
11.1	文献の参照 175
11.2	すべて人間が行う方法 177
11.3	半分人間が行う方法 178
11.4	cite と overcite 181
11.5	文献処理の全自動化 182
11.6	文献データベース概論 183
11.7	pBibT <sub>E</sub> X の実行例 184
11.8	文献スタイルファイル 187
11.9	文献データベースの詳細 188
11.10	並べ替え順序の制御 196
11.11	参照形式を変える 197
11.12	BibT <sub>E</sub> X のこれから 198
<b>第 12 章</b>	<b>欧文フォント 199</b>
12.1	T <sub>E</sub> X でのフォントの仕組み 199
12.2	フォントの 5 要素 199
12.3	フォントのエンコーディングの詳細 203
12.4	ファイルのエンコーディング 207
12.5	Computer Modern 208
12.6	Latin Modern 212
12.7	欧文基本 14 書体 213
12.8	欧文基本 35 書体 217
12.9	T <sub>E</sub> X Gyre フォント集 220
12.10	その他のフォント 224
12.11	数式用フォント 228
<b>第 13 章</b>	<b>和文フォント 241</b>
13.1	おもな和文書体 241
13.2	pT <sub>E</sub> X の和文フォントの仕組み 241
13.3	縦組 247
13.4	文字コードと pT <sub>E</sub> X 248
13.5	OpenType フォントと Adobe-Japan 251
13.6	otf パッケージ 251

13.7	otf パッケージの新しいフォントメトリック	256
13.8	プロポーショナル仮名, 極太フォント	257
13.9	jis/utf/otf フォントメトリック	258
13.10	和文フォントの追加	259
13.11	もっと文字を	260
<b>第 14 章 ページレイアウト</b>		<b>261</b>
14.1	ドキュメントクラス	261
14.2	ドキュメントクラスのオプション	262
14.3	ページレイアウトの変更	265
14.4	例: 数学のテスト	272
<b>第 15 章 スタイルファイルの作り方</b>		<b>277</b>
15.1	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X のスタイルファイル	277
15.2	スタイルファイル中の特殊な命令	283
<b>第 16 章 美しい文書を作るために</b>		<b>287</b>
16.1	全角か半角か	287
16.2	句読点・括弧類	288
16.3	引用符	288
16.4	疑問符・感嘆符	289
16.5	自動挿入されるスペース	290
16.6	アンダーライン	291
16.7	欧文の書き方	292
16.8	改行位置の調整	297
16.9	改ページの調整	300
16.10	図の位置の調整	301
<b>第 17 章 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X による入稿</b>		<b>303</b>
17.1	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X 原稿を入稿する場合	303
17.2	PDF で入稿する場合	303
17.3	ファイルとフォルダの準備	304
17.4	L <sup>A</sup> T <sub>E</sub> X で処理	308
17.5	トンボ	310
17.6	グラフィック	310
17.7	若干のデザイン	311

17.8	PDF への変換	312
17.9	その他の注意	313
<b>第 18 章 T<sub>E</sub>X によるプレゼンテーション</b>		<b>315</b>
18.1	jsarticle によるスライド作成	315
18.2	Beamer によるスライド作成	317
18.3	配布用縮刷の作り方	326
<b>付録 A 付録 DVD を用いたインストールと設定</b>		<b>329</b>
A.1	本書付録 DVD-ROM の中身	329
A.2	Windows へのインストールと設定	330
A.3	Mac へのインストールと設定	335
A.4	Linux や FreeBSD などへのインストール	339
A.5	T <sub>E</sub> X Live	341
<b>付録 B マニュアルを読むための基礎知識</b>		<b>343</b>
B.1	ディレクトリ (フォルダ) とパス	343
B.2	パスを通すとは?	344
B.3	T <sub>E</sub> X のディレクトリ構成	345
<b>付録 C 基本マニュアル</b>		<b>349</b>
C.1	tex, latex, ptex, platex	349
C.2	uptex, uplatex	352
C.3	dvipdfmx	352
C.4	ptex2pdf	353
C.5	dvips	353
C.6	dviout	356
C.7	updmap	357
C.8	Ghostscript	358
<b>付録 D TikZ</b>		<b>361</b>
D.1	PGF/TikZ とは	361
D.2	TikZ の基本	361
D.3	いろいろな図形の描画	363
D.4	グラフの描画 (1)	365
D.5	グラフの描画 (2)	367

目次	
D.6 R で使う方法	368
D.7 gnuplot との連携	369
D.8 ほかの図との重ね書き	371
付録 E 記号一覧	373
E.1 特殊文字	373
E.2 ロゴ	374
E.3 textcomp パッケージで使える文字	374
E.4 pifont パッケージで使える文字	377
E.5 off パッケージで使える文字	379
付録 F Adobe-Japan1-5 全グリフ(+8 文字)	385
付録 G T <sub>E</sub> X 関連の情報源	395
G.1 文献	395
G.2 ネット上の情報	397
あとがき	399
索引	401